

# 第4章 十和田バラ焼きでまちおこし!

B級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」において2年連続グランプリを獲得された富士宮やきそば学会の渡邊英彦さんに、ご当地グルメにおける戦略やまちづくりについて伺いました。



愛Bリーグ（B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会）会長  
富士宮やきそば学会会長  
渡邊 英彦さん

## まちづくりへの想いは伝播します

全国的にご当地グルメと呼ばれるものはたくさんありますが、地域ブランドとして定着するために現在有効な視点がいくつかあると考えています。

第一に、強いて新しいものを開発しないことです。既に存在しているもので地域のかたがたに愛されているものの価値を高めることによつて経済価値を生むのです。第二に、市民の自発的活動を優先し、リスクを伴わずに、足かせのない楽しい事業

を展開することです。第三に、きちんと役割分担をして、みんなが作る側にまわるのではなく、組織を細分化して、事務担当部署や広報活動部署を作り、それぞれが自分の役割に徹することによつて、継続的に活動が推進されると思います。

私は自分の役割を「価値を伝えること」と位置付け、情報発信に徹した戦略で富士宮やきそばをメディアに売り込みました。実例としては、「やきそばG麺」「ミッション麺

ポッシブル」「三國同麺」「麺財布」など情報加工し、親父ギャグを駆使した話題づくりによるメディア戦略を展開してきました。情報発信をするたびに、新聞やテレビなどのメディアやホームページ、ブログなどで大きな反響がありました。そして、見事B-1グランプリで2年連続グランプリを獲得することができました。わたしたちがその偉業を達成できたのは、わたしたちの想いに共感し、一緒に活動してくれた市民、全国のファンのかたがたによるものだと思います。

ご当地グルメで成功するためには、市民一人ひとりが自発的にまちづくりに参画したくなるような環境づくりが重要であると考えています。自然とまちづくりへの想いは伝播します。ご当地グルメは地域に愛されてこそ価値を産むものです。全国発信も重要ですが、さらなる飛躍を目指すためには、これまで以上に地域のかたがたに愛されることが重要です。

十和田バラ焼きゼミナールの活動や想いが、市民一人ひとりの心を動かし、まちおこしへの大きな力となるように、ますますのご活躍をお祈りいたします。

## バラ焼きを十和田の名物に



十和田商工会議所 会長 石川 正憲さん

十和田のまちがバラ焼きで活性化できる可能性を秘めていると感じ、大きな期待を寄せています。

十和田商工会議所では、平成21年度に青年部を中心に市内のバラ焼きマップの作成や、バラ焼きを提供する飲食店にのぼり旗などの目印を設置するような企画を考えています。また、市民レベルでバラ焼きが十和田名物として成長してほしいと思います。

市外、県外にバラ焼きのおいしさを情報発信し、十和田市にきたかたがたが十和田のバラ焼きを求めて、気軽に飲食店に足を運ぶ環境をつくることで、大きな経済効果が期待できます。

今後、バラ焼きの材料に十和田産の農畜産物を使用し、バラ焼きがB級ご当地グルメとして多くのかたがた親しまれることを願っております。

## 十和田バラ焼きゼミナールへの応援メッセージ



十和田市長 小山田 久

十和田に新たな元気や活力を与えてくれる十和田バラ焼きゼミナールに、一言応援メッセージを贈りたいと思います。

世界同時不況など暗いニュースばかりが聞こえる状況の中で、地方自治体を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

このような中で、バラ焼きによるまちおこしが、各種メディアで取り上げられ始めております。これは市民がまちの活性化を目指そうと立ち上がり、団結して行動した成果の現れです。今後の盛り上げを大いに期待します。

より多くの市民が、この活動に関わり支えることで、郷土に誇りと愛着を持っていただくことになれば幸いです。

十和田バラ焼きゼミナールの今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

わたしは学問的な見地から、牛、豚、犬、猫などの動物について研究し、将来臨床獣医師になりたいと思ひ、北里大学に入学しました。はじめて十和田市にきたのは、大学2年生のときです。十和田市での大学生活はつまらないという先輩の話を聞いて十和田のイメージを少しでも良くしたいと思ひ、十和田のまちづくりに参画することにしました。

北里三源色の一員として、とわだよさこい夢まつりに参加したり、秋まつりのボランティアスタッフとして活動したり、とわだストリートフェスタの実行委員の一員として、企画運営に携わりました。

わたしは十和田バラ焼きゼミナールの一員として、これまでの実績を生かして、十和田で過ごす最後の1年間を学業と両立させながら、頑

バラ焼き好きな市民で構成される「十和田バラ焼きゼミナール」。十和田バラ焼きに対する想いと活動に参加した経緯について伺いました。

## B-1グランプリ出場を目指して



十和田バラ焼きゼミナール 高木 良平さん  
北里大学獣医学部獣医学科6年生・福井県出身



十和田バラ焼きゼミナールの皆さん

張つていきたいと考えています。

十和田バラ焼きゼミナールの活動としては、多くのイベントに参加し、バラ焼きの市民への浸透を図り、知名度をアップさせるために県内外の試食会や販売に出向きながら実力をつけ、ひいてはB級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」出場につなげていきたいと思ひます。

そのためには市民の力が必要です。一緒に十和田バラ焼きゼミナールで活動していただける市民の参加をお待ちしています。いまこそ、想いを一つに、皆さんの勇気ある行動をお待ちしています。